

学習指導だより NO.8

H28. 12. 20

下野市立吉田西小学校

まなび



今年度の研究テーマ（学校課題）

～第6回研究授業を終えて～

学ぶ楽しさを実感し、自ら学ぶ児童の育成
～言語力を高める指導法の工夫改善を目指して～

12月7日に6年生の研究授業が行われました。

国語「狂言 柿山伏」という古典を教材とした授業でした。日本の伝統文化に触れる単元で、現代とは違った言葉遣いや言い回し、調子のおもしろさを意識し、楽しみながら音読することがねらいです。現代に通じる昔の人のものの見方や感じ方にも気づくこともできます。

言語力を高めるための手だてとして

①学ぶ楽しさや興味・関心を高める

「音読発表会をしよう（キングオブ狂言2016）」という言語活動を設定しました。狂言「柿山伏」のおもしろさを伝えるように音読することに意欲をもち、興味・関心の持続につながっていきます。



②伝統文化に親しむ

狂言独特の言い回しを読み取るために、映像教材を活用し、映像から独特の言い回しやそれに合わせた舞台上の動きの効果などを考えさせました。デジタル教材によって理解が深まります。



③根拠を明確にした音読

音読の工夫が話の筋にあったものとなるよう、根拠を明確にさせた上で音読の工夫の仕方を考えさせました。また、考えやすいように、音読の工夫の仕方を「話し方（抑揚・間の取り方）・表情・動き」とポイントを絞って焦点化しました。

④読書環境の整備

古典作品に親しむ機会が増えるよう、古典作品を教室に置いたり、朝の読書の時間に古典作品を読む時間を設けたりしました。また、読み語りボランティアの方に古典作品の読み語りをお願いしました。

音読によって自分の思いを伝えるために、話の筋をつかんだり人物像や世界観を理解したりする必要性を感じることで、自ら学ぼうとする気持ちもより強くなると思われれます。目的意識（何のために・誰に向けてなど）をもって取り組むことは、音読に限らずどんな学習にも必要なことですね。